説教余滴、　『新しい翻訳聖書の発行』

12 月初旬、横浜キリスト教書店から新版聖書が届きました。『聖書協会共同訳聖書』引照・注付き、これが正式名称です。まず予定通り刊行されたことを、お慶び申し上げます。
最初は、たいてい遅れるものです。12 月半ば過ぎ、クリスマスに間に合えば上々、と考えていました。多少の驚きがあります。発行後、ミスプリが発見されるのも常です。朝日新聞の校正部記者から教えられました。『校正は、後世恐るべし、ですよ。』

その「特徴と実例」に関するパンフレットがあります。これは、聖書協会の側からの公式なもの。販売促進用のものと理解しています。ここに記されている中で注目されるのは、翻訳の変化です。翻訳は解釈である、と言われます。従って、あるところに関しては聖書解釈が変更された、となります。特に、信仰義認に関する部分の変更は注目されます。

ローマ 3：22、パンフレット 11 ページ下段にあります。
従来の訳は、「すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。」とありました。新訳では次のようになります。
「神の義は、イエス・キリストの真実を通して、信じる者すべてに現されたのです。」
従来はキリストの信仰と訳されたピスティス・クリストゥ、今回は「キリストの真実」と訳されました。キリストへの信仰ではなく、キリストの真実です（フィリピ 3：9 参照）。信仰は、私の側の行為ではないでしょうか。その信仰による義認をただ恵みによる救い、というのはおかしくないか。
木下順治先生は、『ローマ書二文書縫合説』の中で、キリストの真実を主張されました。
この説は、先生の著書『パウロ　　回心の伝道者』筑摩書房刊、にも採録されています。
私は、このことを知り、新版を購入しました。先生の御労苦が認められたように感じたためです。